みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第88号

発行日
令和4年6月1日

◇ 目　　次 ◇

P-2：定期総会・部会打合せ
P-4：宮島学園　卒業記念植樹作業協力
P-5：鷹ノ巣高砲台跡地清掃・整備作業
P-7：自主観察会（1）小なきり海岸清掃
P-9：入浜池定点観察①・維持管理作業①
P-12：清掃登山（弥山・駒ヶ林）
P-14 宮島エコツーリズム推進協議会先進地視察
　　投稿記事　①　ミミズバイ測定
P-15：投稿記事　②　江之浦ヤマザクラ
　　編集後記

「 宮島 福よせ雛 」

宮島代表　杓子丸ひろ子

ブラタモリ風　雛人形

観光客の皆様を福よせ雛たちがおもてなし。人もお雛様も GOTO！宮島
宮島雛めぐり協賛事業(3 月 3 日～4 月 3 日)として　宮島内の etto 宮島交流館、
おもてなしトイレ、大聖院や宮島内のあちこちのお店の中でも　福よせ雛たちがお出迎え！
福よこい　笑顔よこい　勝ちよこい
日の目を得た雛人形おおいにパフォーマンス　宮島雛人形

（ 文・写真　　増田　武彦 ）

定期総会・部会打合せ

日　時：４月９日（土）9:30～12:30
場　所：廿日市市宮島町
　　宮島まちづくり交流センター杉之浦

出席者：猪谷 岩崎 上杉(裕) 上杉(幸) 大西
　　大林 小川 恩田 金山 北野 五石 河野
　　小林(勗) 小林(み) 佐渡 佐藤 末原 兎谷
　　中道 長村 福岡 二神 穂井田 増田 舛田
　　松田 村上(慎) 村上(光) 元広 森 森脇
　　山本(加) 山本(昌) 横路 吉賀 呼坂
　　以上 36 名
（委任状提出者　麻生、種本、三戸、松尾）
環境省：藤重自然保護官　永瀬自然保護官
　　大高下 AR

1. 開会（司会　岩崎副会長）
　配布資料の確認のあと、出席者全員が自己紹介を行った。

2. 開会あいさつ
（環境省）
○藤重自然保護官
　家族のこともあり、広島に戻ってきたいと考えていた。希望して前任地の東京から広島事務所に帰任した。他の地域と比較しても、特に宮島は歴史的文化価値が高いと感じる。

○永瀬自然保護官
　令和４年４月１日の自然公園法施行規則の一部改正で野生動物への餌付けなどの行為に対する規制について、宮島のシカは規制の対象外となった。

○大高下 AR

今回、会員の更新手続きの際のアンケートで、新会員の方などから「宮島の歴史や文化を学びたい」という意見が複数あった。これを受けて、7 月 2 日に嚴島神社での研修会を予定している。

○末原会長

・コロナ感染防止対策で 3 回による活動自粛で、半年以上活動できない期間があった。
・会員動静：今回の更新で 5 名の方が退会された。
・会員の高齢化が明白となっており、今後もケガなく自分の体力にあった活動をお願いする。これまので無事故・無違反の活動を継続して行きたい。
・12 月の研修会で発表した入浜池の活動について、特集号（別冊）の作製を考えている。
・3 月 26 日、27 日に宮島エコツーリズム協議会主催の下呂市エコツーリズムの先進地視察に参加（会員 3 名参加）。現地の商工会、観光協会が中心となり、観光客の滞在時間を延ばす取り組みを行っている。宮島ですぐに取り組むのは難しく、現時点で本会が主体となってやることはないと考える。

3. 総会の成立確認

出席者 36 名、委任状提出者 4 名、合計 40 名　全会員数 40 名の半数以上であり、総会成立を確認。

4. 議事（議長　末原会長）

次の 4 議案につき会長、各部会長、会計、監査から説明・報告があり、異議なく承認された。

議案第 1 号
　令和 3 年度活動報告について
議案第 2 号
　令和 3 年度決算及び監査報告について
議案第 3 号
　令和 4 年度活動計画（案）について
議案第 4 号
　令和 4 年度予算（案）について

5. その他質問事項

・令和 4 年度予算案の「データーサーバー使用料 5,000 円」について
　将来的に会単独のホームページを設けることを検討する。
・会の活動の中でもっと歴史文化を学んではどうか。
　環境省の研修会を 7 月に実施する予定で嚴島神社側と調整している。
・活動日の設定が月によって異なる。
　活動が増えているのが要因で平日や日曜日でどうしても実施しないといけない活動以外は基本、土曜日の開催です。

6. 総会終了

会員登録証の更新・交付手続きのあと、会場玄関横にて集合写真を撮影し、部会毎の会合を行い、12 時 30 分に終了した。

総会（1）

総会（2）

（　文：森脇　写真：河野　）

鷹ノ巣高砲台跡地清掃・整備作業

日 時：3 月 12 日(土) 9:00～12:30
場所：鷹ノ巣高砲台跡地
天 候：曇り時々晴れ
行事推進委員：今田 兎谷 上杉(幸)
参加者：猪谷 岩崎 上杉(幸) 恩田 河野
小林(勗) 佐藤 末原 増田 三戸
元広 森 種本 福岡 村上(慎) 森脇
以上 16 名

昨年 10 月からコロナの影響により活動が中止になっていましたが、久々に開催されました。

天気は、数日前から暖かくなり、雨の心配もありませんでした。桟橋での集合時間は朝 9 時でしたが、集まった人から順にタクシーに乗り、鷹ノ巣分岐で降りることになりました。途中、道路を悠々と横切る鹿を、タクシーの運転手さんが待つ姿に、鹿と人間のバランスの取れた共生を感じました。

9 時 20 分、作業前ミーテングがあり、ダニに気を付けるよう注意がありました。今回は総勢 16 人。事前に用意された熊手や箒を持って、鷹ノ巣砲台跡の広場まで歩いて行きました。その間、昨年の大雨の影響だそうで、折れた木があちこちに見られました。落ち葉の量もすごい。広場到着後、山頂近くの方位観測所跡までの道を 2 グループに分かれて清掃することになり、私は方位観測所跡や指令室跡を見学後、作業に取り掛かりました。

10 時 15 分ごろ、休憩があり、末原会長と奥様の手作りのかるかんを頂きました。美味しくて元気が出たところで、次は広場に続く石段を清掃しました。落ち葉の下に土砂が積もっていて、熊手で取り除く作業をしましたが、思った以上に重労働でした。

その後、鷹ノ巣高砲台跡地に移動。ここでも落ち葉の量が半端ない。

12 時に鷹ノ巣高砲台跡地で昼食を取りました。末原会長より、ここは国有林なので許可をとって活動していること、吉島にある広島森林管理署が管理していることなどの説明がありました。

近くに土に埋もれた弾薬倉庫があり、50 年ほど前は中に入れたというお話も聞きました。何もしなかったら砲台跡も土に埋もれてしまうかもしれません。また、レンガや石があちこち崩れていてかなり老朽化が進んでおり、清掃活動により少しでも史跡保存の役に立てればいいなと思いました。

12 時 30 分、昼食後現地解散しました。帰りは歩いて山を下り、途中で見えた包ヶ浦の景色がきれいでした。

（ 文：上杉(幸) 写真：河野 ）

宮島学園
卒業記念植樹作業協力

方位観測所跡清掃

連隊長指令室跡清掃

観測所跡への階段清掃

高砲台跡地清掃

日 時：3月16日(水) 8:30～14:00
天 候：快晴
参加者：大林 河野 小林(勗) 末原 福岡
元広 森 呼坂 以上8名

宮島学園卒業記念植樹は、広島森林管理署体験植樹事業の一環として、宮島学園卒業生（9年生）に、宮島ロープウェー獅子岩駅周辺の植生を復元させるための植樹です。

広島大学宮島自然植物実験所坪田准教授のご指導により、宮島で採った樹木の種を蒔き育てた苗木を卒業生が植樹するものです。

参加者は、宮島学園卒業生10名、宮島学園教頭先生をはじめ先生4名、広島森林管理署1名、廿日市市教育委員会生涯学習課1名、廿日市市宮島支所3名、広島大学宮島自然植物実験所坪田先生をはじめ職員・学生の9名、宮島弥山を守る会4名、サクラオBD(旧社名：中国醸造)4名、当会員8名など49名でした。

当会員は8時30分に宮島桟橋に集合し、桟橋横で育てていた苗木25本のトラックへの積込作業を行った後、徒歩で宮島ロープウェー紅葉谷駅に移動し、ロープウェーで苗木や物資と共に9時40分ごろ獅子岩駅に到着しました。

獅子岩駅前での開会式で教頭先生、生徒代表から挨拶があり、広島森林管理署職員の方から植樹について説明がありました。次に、坪田先生から植樹位置、その場所に適した苗の種類の指定があり、苗木を植えるため掘った穴が文化財保護法許可範囲内(直径30㎝、深さ30㎝)になっているかを廿日市市生涯学習課職員の方に確認してもらった後、腐葉土を混ぜ苗木を植え鹿除け防護柵を設置し最後に水を撒きました。

穴掘り、植樹及び防護柵の設置は主に生徒が行い、当会会員など他の参加者は苗木や物資の運搬、植樹作業の補助を行いました。

作業は午前中 2 時間、昼食後 1 時間要しました。13 時 20 分からの閉会式で生徒代表から謝辞があり作業は終了し、ロープウェーで下山し、桟橋に 14 時 30 分ごろ到着しました。

なお、植樹した苗木は、アラカシ、アカガシ、ツクバネガシ、ウラジロガシ、ウリハダカエデ、ヤブツバキ、コジイの 7 種、25 本でした。

この日は無風快晴で気温は 20℃になり爽やかな春の日差しの中、絶好の植樹日和となりました。卒業生にとって良い思い出になったのではと思います。

昨年までに植樹した樹木約 10 本がイノシシ・シカによって防護柵のネットが持ち上げられ、葉や茎が食いちぎられて枯れていた。強固な防護柵等を考える必要があると感じました。

（ 文・写真：河野　集合写真:広大 内田様 ）

植樹状況

鹿除け防護柵の設置

トラックへの苗木積込

生徒代表の挨拶（閉会式）

苗木をロープウエーに乗せる

集合写真（獅子岩駅）

会員自主観察会（1）

（小なきり海岸　植物調査）

小なきり海岸清掃

日 時：4 月 16 日（土）9:00～
場 所：小なきり海岸
天 候：快晴
行事推進委員：
（観察部会）北野・小林(み)　呼坂
（環境整備部会）山本(加) 吉賀
出席者：岩崎 上杉(裕) 上杉(幸) 大林 恩田
金山 北野 河野 小林(勗) 小林(み)
佐渡 佐藤 末原 兎谷 長村 福岡
二神 穂井田 増田 舛田 松田
村上(慎) 元広 森 森脇 山本(加)
山本(昌) 横路 吉賀 呼坂
以上 30 名
環境省：藤重自然保護官、永瀬自然保護官、
大高下 AR

（観察部会）　小林 勗
　倒木が多いため中に入れなかったりして前回より樹木の確認が少なかった。
ザイフリボクは前年通り何もなかったように可憐な姿を見せてくれた。心が洗われるようです。
（　小なきり浜植物のマップ：小林 勗　）

（環境整備部会）山本加奈子
　総会終了後、小なきり海岸の清掃を行いました。事前に廿日市市の方で大きなゴミは、持ち帰ったということだったので、全体的にゴミは少なかったです。船で使われていたと見られるロープや浮、タイヤなどのゴミがあったのが印象的でした。牡蠣養殖用パイプや発泡スチロールのゴミについては、回収に終わりが見えないと毎年感じます。

（　写真　河野　）

小なきり浜の植物

令和4年4月9日

入浜池定点観察①
維持管理作業①

日 時：４月16日(土) 9:00～15:00
場 所：入浜
天 候：快晴

行事推進委員：（環境整備部会）恩田　佐藤
（観察部会）大西　小川　小林（み）穂井田
松田　横路
参加者：岩崎 大西 小川 恩田 河野
小林(勗) 小林(み) 末原 兎谷
長村 福岡 穂井田 増田 松田
村上(光) 元広 森 森脇 山本(昌)
横路　　以上 20 名

本行事は新型コロナ禍で中止が続いていましたが、1 年 7 月ぶりの開催となり 20 名と多数の参加がありました。

宮島桟橋前広場からタクシーなどで移動し、入浜に 9 時 20 分到着。早速、維持管理班と定点観察班に分かれ、作業開始。維持管理班は全長 50m に及ぶ水路の大規模補修です。傷んでいたパネルを外し金属製パネルで補強する作業で、久しぶりに力作業をし、気持ちの良い汗をかきました。観察班は水質調査、植物観察、野鳥観察、昆虫観察に分かれて観察しました。晴天が続いたためか入浜池がこれほど低水位になったのをはじめて見ました。驚きました。

12 時から昼食を取った後、各作業班から報告がありました。この後、13 時より午前中で完了しなかった残りの水路補修作業を観察班も加わり参加者全員で行い 14 時 30 分に終了しました。帰路はタクシーなどで宮島桟橋まで移動し 15 時に解散しました。大変お疲れ様でした。
以下に各作業班の概要を記載します。

（　文：河野　）

環境整備部　恩田 浩幸
入浜水路作業

コロナ禍で、作業が出来ない期間が長く続いたので水路の補修が必要となり、少ない人数の中チームワークで作業を行いました。使わなくなったガードレールで補強し水の通りを確保しました。見た目も以前より立派に見えるのは私だけでしょうか。

補修前

ガードレールの設置

パネルの固定

補修終了（入浜池側）

（　写真：河野　）

入浜池の水質調査　横路 晃
水質調査班（小林（勗）、小川、横路）

「入浜」へは個人で来た、令和３年 10 月８日以来である。到着して目に入ったのは「ヒトモトススキ」の思いもよらない姿であった。　根元から 50cm 位の高さで、丸く刈り取られたような姿に驚く。今までには無かった現象である。池の水位は少な目で、池周辺の乾燥した場所では見られるが、水に囲まれた池の中では見られない。

干上がった岸辺の付近の足跡から、鹿の食害であることが考えられた。水質調査の終了後に実際に、鹿数頭が群れをなしてヒトモトススキを食べているのが目撃された。

今後、「ヒトモトススキ」の生育状況を監視する必要がある。

（水質調査の結果）

測定点	A	B	中央	C‘	D	E	F	海水
塩分濃度（%）	0.58	0.56	0.60	0.61	0.31	0.73	0.73	2.42
COD	8.0 以上	8.0 以上	8.0 以上	8.0 以上	8.0 以上	8.0 以上	8.0 以上	山水の水量
PH	（測定器の不調で測定出来ず）							5秒/
杭の水位（cm）	-20	-19						(7ℓﾊﾞｹﾂ)

・池の水位は低く、ヒトモトススキの被害が大きい。

・池全域で塩分濃度が検出された。海水が流入したことが考えられるが、２月３日から４月 15 日の満潮時の潮位が 360cm 以下であり、２月４日以後の流入は無かったと思われる。

今年は冬季の降水量が少なく池の湧水量も少なくなり、海水の残留が有ったためと考えられる。

入浜の植物観察結果　山本 昌生

（写真含む）

植物の状況

４月中旬ということで、草木の芽吹きの時期であり、落葉樹、常緑樹の芽吹きが見られ、湿地ではハンゲショウも芽吹いていた。いくつか開花した植物も観察できた。

芽吹き：シロダモ、カンコノキ、ミミズバイ、アカマツ、テリハノイバラ、クマノミズキ、エノキ、フユウガキ。開花：ナンゴクウラシマソウ、サルトリイバラ、ヤマモモ、アラカシ、フデリンドウ。

ヒトモトススキの状況を調査した。過去の写真との比較や会員からの指摘通り、以前よりも水が少なくなり数も減少していた。ほとんどの株は新しい葉が伸びておらず、シカによる食害と思われた。

実際、当日もシカによる食害が観察できた。

これは水位の低下によりシカが侵入しやすくなり多くの株を食害したと思われ、株のまわりにシカの足跡があり、葉の先端もシカによる食害が認められた。

（大きさ比較：左が 110cm、右が 40 ㎝）

ヒトモトススキの群落の中で、食害された株は草丈 40～50cm と低くちょうどシカが食べやすい高さであったが、食害が目立たず新

しい葉が伸長していた株は草丈約 110cm とシカが食べにくい高さであるためと思われた。

また、他の場所のヒトモトススキはすでに葉が伸長しており、シカによる食害がなければ入浜のヒトモトススキもこのように茂っていたと思われる。

さらに株元はイノシシによると思われる食害があり、地面と接する部分の根は切断されていて、株によっては地際部分の食害により地際が細くなっていた。

その結果地上部の重さを支えきれずに倒れていた株もいくつかあった。全体的にヒトモトススキの成育が悪く、恒常的にシカ及びイノシシの食害による被害があることが伺えた。ヒトモトススキの成育及び被害状況については今後も観察していくことが望ましい。

野鳥観察結果　元広 修爾
　調査班（大西、穂井田、元広）

当日は、次ページの一覧表のとおり、冬鳥、夏鳥、留鳥の計 21 種に出会うことができました。

風がとても強い日でした。ミサゴや多数のトビが見られました。春の青空を背景として、ミサゴやトビが飛び交う姿は非常に美しいものでした。また、ヒヨドリは、冬季に、北方のものが県内やさらに南の地域に移動すると言われています。今回は、ヒヨドリたちが 10 数羽または数十羽の大群となって、北方へと移動していく姿を何度も観察することができました。

森の中では、姿は見えませんでしたが、ウグイスが美しい声で鳴いていました。砂浜では、ハシボソガラスを見かけました。エサを探した後、太陽に照らされて黒々と光りながら山へと飛んでいきました。

私は、海辺の松に留まっているホオジロのメスを個人的に初めて撮影することができたので、とても嬉しく感じました。

※『ひろしま野鳥図鑑（増補改訂版）』（2002 年　日本野鳥の会広島県支部（編）、中国新聞社刊）を参照。

入浜　野鳥定点調査　9:30～11:30

種名	数	種名	数
カルガモ	2	ツバメ	1
アオバト	1	ヒヨドリ	1000
アオサギ	1	ウグイス	5
ユリカモメ	15	メジロ	2
セグロカモメ	5	シロハラ	5
ミサゴ	5	スズメ	4
トビ	10	ハクセキレイ	1
コゲラ	1	カワラヒラ	4
ハシボソガラス	2	アオジ	1
ハシブトガラス	3	ホオジロ	3
シジュウカラ	3		計21種

季節区分	冬鳥	夏鳥	留鳥

※季節区分は、『ひろしま野鳥図鑑』（2002 年　日本野鳥の会広島県支部（編）中国新聞社刊）による。

ミサゴ
（2022.4.16 宮島入浜池　撮影：穂井田）

北へ移動するヒヨドリの群れ
（2022.4.16 宮島入浜池　撮影：元広）

清掃登山（弥山・駒ヶ林）

日 時：4 月 23 日(土) 9:00～16:20
場所：弥山・駒ヶ林
天 候： くもり
行事推進委員：上杉(幸) 村上(慎)
参加者：猪谷　岩崎 上杉(幸) 大西 北野
　　河野 佐渡 末原 兎谷 福岡　村上(慎)
　　森 横路　吉賀　以上 14 名

集合後に配られた地図を見て「おっ、これは長い！」が第一印象。

宮島ロープウェーの獅子岩駅までのコースは、一部包ヶ浦自然遊歩道（通称：スカイ歩道）を通るものの一般的な登山道でなく国有林のため事前に入林許可を得て開催しました。

9 時 10 分宮島桟橋を出発。うぐいす歩道から陸軍道路を経由し入山。宮島都市公園エリアと国有林の境界に道があり、頂部に赤いペンキの境界杭が目印となります。ピンク色のヒメヤマツツジが付近を彩っていました。

博打尾を通過し、獅子岩別れで白装束の修験者の団体に遭遇。宮島が山岳信仰の地であることを再認識しました。

榧谷駅を経由して獅子岩駅に 12 時到着。このルートは歩く人が少ないためゴミはほとんど無くほぼ登山でした。

弥山山頂で昼食後、大元ルートを下山。駒ヶ林は時間の都合上、次回のお楽しみということでパス。この大元ルートは個人的には何度も通ったことのあるルートですが、会のメンバーと歩くと発見の連続でした。特に「木」は原生林ならではの種類や形状があり、名前もたくさん教えてもらいました。

途中、某テレビ局の番組ロケで出演者が興味を持った木を見つけ、「よくもまぁ、こんなところに生えているな～」と改めて木の生命力を感じることができました。これをお読みの方、大元ルートを歩かれる時はぜひ探してみてください。

15 時 50 分、約 1 時間予定時刻を超過し大元公園に到着。回収したゴミは少なかったですが、今回歩行したルートが綺麗に保たれていることを確認しました。

国有林・都市公園との境界杭

弥山本堂下の巨木（アカガシ）とトサムラサキ

ヒメヤマツツジ

弥山展望台出発

榧谷駅に到着

ウラジロガシの巨木

榧谷駅から獅子岩駅の向かう稜線にて

大岩に根をはわす木（ハゼノキ？）

（　文：村上（慎）　写真：河野　）

宮島エコツーリズム推進協議会先進地視察

3月26～27日に宮島エコツーリズム推進協議会で、岐阜県下呂市エコツーリズム協議会への先進地視察に佐藤会員、森脇会員と共に同行した。他の参加者は上嶋協議会会長、宮島観光協会、宮島町商工会、宮島登録ガイド連絡会、みやじま紅葉の賀、廿日市市観光課職員の計14名です。

下呂市は、面積851ｋ㎡、人口33千人、飛騨木曽川国定公園、岐阜県立自然公園などが位置する生物多様性に富んだ自然豊かな地域で、御嶽山などの火山帯による温泉があり、「日本3名泉」の下呂温泉や飛騨小坂温泉郷があり年間を通じて110万人の宿泊者が訪れている。

初日は、下呂市エコツーリズム推進協議会会長を兼務している瀧康洋観光協会長の講話を聴きました。同協議会は下呂市観光協会を事務局にして、観光協会、商工会、旅館組合、飲食業協会、交通機関などの約50名の組織で構成されている。また、下呂市ＤＭＯ委員会（誘致宣伝委員会）との役割と連携を保って活動している。活動は、自然と観光を利用した5地区を活動拠点として、市民体験プログラムやエコツアーを実施している。

2日目は、下呂市小坂町にある「小坂町大洞・お坂なリバーベース」で、淡水魚養殖場見学、釣り池での淡水魚釣り、デイキャンプサイトで釣った魚の塩焼きと天ぷらでの昼食、焚き火カフェでホットリンゴ焼きを体験しました。

視察しての感想は、会長のリーダーシップが凄くて、それに引き連られるように事務局及び合併前の旧町村観光協会並びに組織の構成員が連携・協力していたことです。

宮島エコツーリズム協議会の活動は、これからですが組織の体制、資源の活用が必要で、私共の会は組織の一員として協力し、連携を保って行きたいと思います。

デイキャンプサイト
（三角屋根は焚き火カフェ）

淡水魚養殖場
（イワナ、アマゴ、ニジマス等）

釣り池で淡水魚釣り体験

（　文・写真　末原　）

***** 投稿 *****

① 再生ミミズバイ-

もみじ谷道ミミズバイを測定

今年の新春登山もコロナ禍により中止となり、もみじ谷道のミミズバイ測定もできなくなりました。そこで4月2日総会の資料作りなど準備に集まった後　河野会員と2人、測定に登ることにしました。

獅子岩展望台にて昼食をとった後、ミミズバイの高い位置にあるものから測定作業に入りました。　②は昨年無残にも引きちぎられた跡があり完全に枯死状態でしたが、嬉しいことに根元から新芽が出ていて 40 ㎝ばかり伸び若葉もみずみずしく再生した様です。　③④はいずれも樹勢盛んで多くの枝が伸びて順調に生育しています。

名称	番号	樹高（cm）	幹周り（cm）	場所	標高（m）	前年樹高	前年幹周
大黒天	①	123	5.4	大黒天上左側	385	120	5.2
15号	②	43	4.6	15号堰堤上　右側	370	40	枯れ死
大岩下	③	189	8.9	14号堰堤上　右側	350	183	8.8
13号上	④	280	11	13号堰堤上　右側	330	228	10.5
13号	⑤	247	6.4	13号堰堤上 右側	320	237	6.2
天然橋		350越	17				

再生したミミズバイ（表の②）

大岩下のミミズバイ（表の③）

（　文：岩崎　写真：河野　）

② 江之浦ヤマザクラ

3月 19 日には満開

宮島で真っ先に咲くと言われる江之浦のヤマザクラ、今年も 3 月 19 日に見に行くとすでに満開でした。桟橋前も大元公園のサクラもまだ蕾、広島のソメイヨシノの開花は 3 月 21 日で満開は 3 月 29 日でしたから、一週間は先んじています。（昨年は全国的にサクラの開花が早く江之浦のヤマザクラも 3 月 10 日が満開でした）例年ならサクラのピンク色と手前のアセビの白色、ツバキの赤色と三色揃いで見ることができるのですが、今年のツバキはほんの僅かでした。ちょうど見に来ていた地元の人の話では　斜面に生えているので崩れるのはないかと心配されていましたが、海岸から見上げると幾本にも分かれた大枝は重そうに見えました。

（　文：岩﨑　　写真：河野　）

◇ 編　集　後　記 ◇

88 号の編集&配信は無事に終えましたが、活動参加 0 回でした。次回は頑張ります。

（麻生）

瀬戸内海国立公園
宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省　中国四国地方
環境事務所　広島事務所
（〒７３０－００１２）
広島市中区上八丁堀６番 30 号
広島合同庁舎３号館１階
TEL082-223-7450、FAX082-211-0455